

主任教授からのメッセージ

～病理医は求められています～

近年、臨床医療チームの一員として活躍できる病理医が求められていますが、病理医の数が不足していることが問題となっています。一方、日本病理学会に所属する病理医に占める女性病理医の割合は年々増えており、20～30代の病理医の半数は女性となっています。家庭と仕事を両立しながら、様々な分野で活躍する女性病理医が増えつつあり、色々なロールモデルに出会うことができます。病理診断科は比較的新しい診療科であるため、病理医のライフスタイルや将来像など分かりにくい部分も多いかと思います。病理医の仕事に少しでも興味があれば、是非、当科を訪ねてみてください。病理医の仕事がいかにか女性に向いていて、どのような活躍ができるのかを感じて頂けるとと思います。

○ 診療科の特徴

病理診断科は、ほぼ全ての診療科から提出される検体に対して顕微鏡を用いて確定診断を行い、治療方針の決定に重要な情報を提供しています。直接患者さんを診察することはありませんが、顕微鏡を通して、頭から足の先まであらゆる疾患の診断に携わることができます。また、専門医取得後は、全身の臓器から専門性を選ぶことができるため、活躍できるフィールドが非常に幅広いのも特徴です。

○ 診療科で働く女性医師

当科には3名の女性医師が在籍しており、そのうち1名は歯科医師です。現在、育児中の女性医師はおりませんが、過去には多くの育児中の女性医師が活躍していました。また、男性医師にも育児中のスタッフが多数在籍しており、互いに協力しながら日々の業務に取り組んでいます。既婚・未婚、お子さんの有無にかかわらず、それぞれの立場を尊重し、病理医としての誇りを持って業務に励んでいます。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産前・産後休暇や育休休暇の取得は、個々の状況に応じて対応し、その後、どのような勤務形態で復職するかを相談しながら決めていきます。家庭と仕事のバランスや考え方などは人により様々ですので、個人の状況に合わせて柔軟に対応していきます。

○ 研修内容

専門医取得までは、関西医科大学病理専門研修プログラムに沿って研修を行います。研修内容の詳細は、日本病理学会から配布される「病理専門医研修手帳」に記載されています。当院では、腫瘍、非腫瘍に偏りなく専門医取得のために十分な症例を経験することができます。さらに、幅広い症例を網羅的に学ぶことができるよう、各臓器の典型例を集めた標本セットなども用意しています。また、病理診断は2名以上の病理医でダブルチェックを行う体制をとっていますので、専門医の有無に関わらず、病理専門医の指導の下、安心してトレーニングを行うことができます。



日常的に経験頻度が低い疾患は、標本セットから学ぶことができます。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

病理医の仕事は、当直や緊急の呼び出しがないことから、ワークライフバランスに優れており、時間的制約を受けやすい女性にとってやりくりがしやすいです。とはいえ、ライフステージの中では、出産や子育てだけでなく、自身や家族の体調不良や介護など様々なことが起こり得ます。男女問わず、そのような場合の欠席はお互い様ですので、皆でバックアップし合えることが大切と考えています。復帰後にも、またステップアップできる仕組みを整えつつ、一人一人がやりがいを感じて、病理医として成長し続けていけるようサポートできたらと考えています。

ライフステージが変わるごとに、新たな不安や悩みも生まれますが、一人で色々考えて立ち止まるより、周りの人を頼りながら行動に移してみると、意外に前に進めるということも沢山あります。私も、諸先生方からのアドバイスが、解決の糸口につながる事が多々ありました。色々な人や支援に頼ることに、遠慮する必要はありません。何でも、お気軽にご相談ください。

➤ 復帰した医師の声

過去に在籍した先生の体験談

私は卒後2年目と4年目に出産し、それぞれ産後8か月、3か月目に復帰しました。医師のキャリアを歩み始めたばかりでの妊娠・出産であったため、少しでも多く経験を積んで早く一人前になりたいという思いがありました。職場から近くに住まいを整え、院内保育所に子供を預け、授乳に通いながら仕事ができるという安心できる状況で復帰しました。

また、夫が大学院に進学し一緒に子育てをしやすい状況に恵まれたため、復帰後はフルタイムで仕事を続けることを選択しました。復帰するにあたり、仕事と子育てを両立されている上司の存在や職場の理解はとても心強かったです。特に、子供が小さいうちは、急な発熱の呼び出しなどで職場を離れなければならない時もありましたが、周りの協力や理解に感謝しつつ、その時にできる精一杯の仕事をする事を心がけてきました。

子育てをしながら仕事を続けることに色々な葛藤があったことは事実です。しかし、そのおかげで効率の良い時間の使い方や忍耐力、マルチタスク能力も身に付き、現在の幅広い仕事に活かされているように思います。また、米国留学など大学から支援を受けたキャリアアップのための環境は、結果的に子供に対してもよい教育環境となり、自ら夢や目標を持って自立することに繋がりました。そして娘達の成長は、私自身が新たな挑戦を続けていく力にもなっています。

● 講座ホームページ 関西医科大学 病理学講座

日々真摯な気持ちで病理診断に励むことのできる方を募集しています！こちらまでご連絡、アクセスください♪

* アドレス：surgpatholsuki@gmail.com

* HP：<https://www3.kmu.ac.jp/pathol/>